

新着案内

町田の文学

第39号 2018.8.1 発行 町田市民文学館ことばらんど

二〇一五年五月、八四歳で逝去された町田市前市長・町田市民文学館元名誉館長の寺田和雄さんは、若い頃から山登りが趣味で、また大の読書家としても知られていました。ご自宅には書齋はもとより居間や寝室にまで書架が並び、優に五〇〇〇冊を超える蔵書に囲まれながら、多忙を極める公務を終えて家でゆっくり読書するのが何よりの愉しみ、と生前よく話されていました。

文学館地下1階書庫に設置された「山岳文庫」。目録をご覧になり、ご希望の資料をカウンターでお申し出ください。職員がお出します。



「山岳文庫目録」を
公開しました！

故寺田和雄さん旧蔵の山岳書目録

「山岳文庫目録」公開

名著や戦前の雑誌も

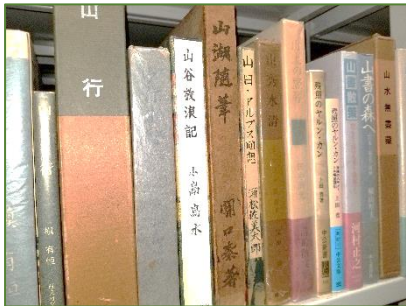
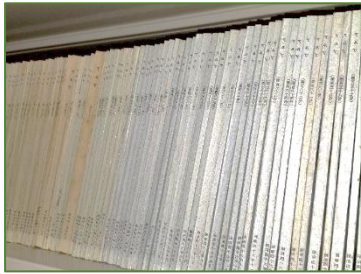
特に、若いころから古書店を回って探し集めた山岳書のコレクションは密かな自慢で、作り付けの書棚に古今東西の登山エッセイや登頂記、山の雑誌などがぎっしり詰め込まれていました。

小島鳥水の『日本アルプス』（前川文栄閣・一九一〇年）、大島亮吉の『山・研究と随想』（岩波書店・一九三〇年）、藤木九三『雪・岩・アルプス』（梓書房・一九三〇年）、エミール・ジャヴェル『一登山家の思ひ出』（角川書店・一九五二年）といったその分野では古典的な名著から、町田在住の作家・イラストレーターで、やはり山をこよなく愛する沢野ひとしさんの山の随筆まで、さらには「ケルン」「山小屋」「山と

高原」（いずれも朋文堂）といった戦前の山岳雑誌などです。

これらのコレクションは、当文学館が開館した二〇〇六年以降少しずつ館に寄贈され、没後ご遺族によって、残されたすべての資料が寄贈されました。これまで未整理のまま地下の書庫に保管されていましたが、本年三月ようやく一通りの整理を終え、このほどホームページ上にその書目を「山岳文庫目録」として公開することができました。資料総数は、図書一二七七冊、雑誌八二三冊です。

これらの資料目録は、文学館ホームページ、「町田ゆかりの作家」内にデータとして



公開しています。また、カウンターに閲覧用として、目録を印刷したものをご用意しております。

資料は館内での閲覧のみとなっておりますが、すでに絶版等で入手困難な資料もたくさんありますので、「山岳文庫目録」をご覧になり、手に取ってみたい資料がありましたら、カウンターでお気軽にお申し出ください。ご利用をお待ちしています。

寺田和雄（一九三二～二〇一五）

町田市生まれ。一九九〇年より町田市長を四期務める。町田市民文学館の設立にも尽力し、二〇〇六年の開館時に名誉館長に就任。著書に『わが山旅、まちだ文学散歩』『山憶い 都市想い わがふるさと町田をめぐって』『千曲川源流紀行』『ふるさと町田文学散歩』などがある。



（写真／『まち想い人 寺田和雄さんを偲ぶ』より）

文学館の 蔵書目録・コレクション目録

当館ホームページで
ご覧いただける
蔵書目録
コレクション目録

町田市民文学館では、「山岳文庫」のほかにも町田にゆかりの文学者の方からご寄贈いただいた資料を整理保存し、目録を順次データ化して、公開しています。

これらの目録は、町田市民文学館ホームページ内の「町田ゆかりの作家たち」からご覧いただくことができます。また、印刷したものを閲覧用としてカウンターにご用意してあります。

蔵書、コレクションは、ご要望いただいた資料を地下書庫からお持ちし、館内閲覧となります。カウンターでの手続きが必要ですが、貴重な資料をどうぞゆつくりご覧ください。

遠藤周作蔵書目録（和書篇）

作家遠藤周作氏は一九六三〜八七年まで、玉川学園に居住しており、遠藤氏没後、その蔵書の一部を夫人から寄贈いただきました。本目録はその和書目録です。なお、フランス語文献をはじめとする洋書目録は「光の序曲」として当館で販売しております（三五〇円）。

地下2階書庫に設置された「遠藤周作文庫」



青芝・八幡城太郎文庫 漢籍コレクション目録

「漢籍コレクション」



当館では相模原市にある青柳寺の先代住職、八幡城太郎氏（詳しくは八ページをご覧ください）旧蔵の膨大な資料をご寄贈いただき、「青柳寺・八幡城太郎文庫」として保管、順次整理中です。親交のあった俳文学者、高木蒼梧旧蔵資料も含まれています。文庫資料中、漢籍について、この度、漢籍研究会のご協力により目録を作成しました。

新刊紹介

寄贈いただいた町田在住の方の著書を中心に紹介しています。

『詩集 ふたたび 街角』

高橋しげを／著 創英社・三省堂書店 2018.6

高橋しげお

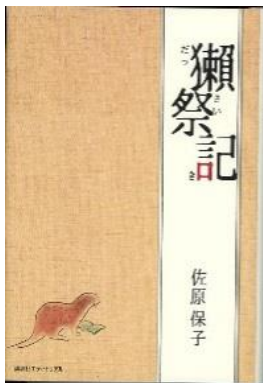
東京都生まれ。本作が12冊目の詩集。その他、エッセイ、詩集英文などを刊行。町田市在住。

表題作のほか、四五編の詩を収録。
「ふたたび 街角」
あなたに
本気な笑顔
明かるい 笑顔
どこ どこに
笑顔 さがしの
旅行に行く
「あとがきに添えて」も
心を打つ。



『瀬祭記』

佐原保子／著 講談社エディトリアル 2017.12



本作のタイトルは正岡子規の雅号の一つ「瀬祭書屋主人」からのものだという。カワウソは食事の前にいくつも魚を並べてから食べる習性があると言われ、病床の子規がその有様を自分の境遇に重ねたことからの命名だったが、著者自身も手近なところに物を置いて原稿を書くところから、この書名になったという。日常をこまやかに描いたエッセイ集。

佐原保子

1947年生まれ。これまでに、『苔の花』（2006年）、『良いお日和で』（2010年）を上梓。町田市在住。

【主な寄贈雑誌】

文芸誌：「相模文芸」「文芸多摩」「ベルク（山の文芸）」「三田文学」

詩誌：「璞（あらたま）」「構図」

短歌誌：「青垣」「歌と観照」「開耶（さくや）」

「日本歌人クラブ 風」「玉ゆら」「はなさい」

俳句誌：「青芝」「阿夫利嶺（あふりね）」「罨（こだま）」

「山暦（さんれき）」「梅林」「都市」「風土」「波」「俳句界」

「蒼茫（そうぼう）」「八千草」

その他：「多摩のあゆみ」「隣人」

新刊紹介

寄贈いただいた町田在住の方の著書を中心に紹介しています。

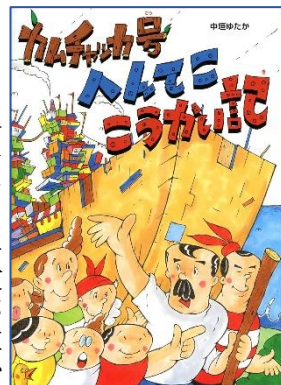
中垣ゆたか

1977年生まれ。イラストレーター、絵本作家。絵本に『ぎょうれつ』(偕成社)『タロとチーコのみみつのだいぼうけん』(小学館)などがある。ブログで4コママンガ「町田家、あさって、しあさって。」を毎日更新中。2017年当館で「中垣ゆたか展」が開催され、好評を博した。町田市在住。

『カムチャッカ号へんてここうかい記』

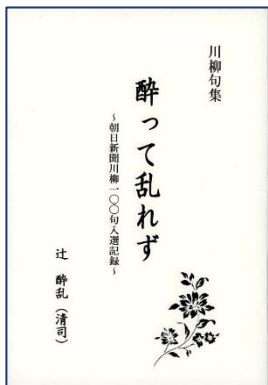
中垣ゆたか/作・絵 風濤社 2018.6

小さな島の人口が増えすぎて、島から落ちる人まで出る始末。そこでお父さんは考えた！新しい島を見つけよう！大きな船をつくって、冒険のはじまり！細かい絵の中に一家をはじめ、いろいろなキャラクターを探し楽しみもある。



『酔って乱れず～朝日新聞川柳一〇〇句入選記録～』

辻醉乱(清司) / 著 2018.6



平成五年から三〇年までに朝日新聞「川柳」欄に入選した一〇〇句十一句を中心にまとめる。「責任を政府が持つという不安」(原発汚染水漏れ完全コントロール発言)、「政治家に見込みがあると自民党」(日大アメフト問題の監督・コーチ謝罪会見)など軽妙洒落な時事句集。

辻醉乱(清司)

1939年山梨県生まれ。川柳歴約16年。「やなぎ柳会」所属。また当館の市民研究員として、町田ゆかりの江戸俳諧資料『八重山吹』『草神楽』など3冊(いずれも文学館発行)の翻刻に携わる。町田市在住。



たてのひろし 館野鴻絵本原画展

ぼくの昆虫記

—見つめた先にあったもの—

展覧会開催中

2018年9月24日(月)まで

10:00~17:00 入場無料

休館日：毎週月曜日と第2木曜日

ただし9/17、9/24は開館

展示解説：8/14(火)、9/11(火)、9/24(月)

14:00~14:30 申込不要

新刊紹介

寄贈いただいた町田在住の方の著書を中心に紹介しています。



『スーパーカブ2』『スーパーカブ3』

トネ・コーケン／著 KADOKAWA 2017.10 2018.5

友だちも家族もない女子高生、子熊こくまがスーパーカブ（五〇ccのバイク）を手に入れることで、自立していく物語の続編。第一巻は『文庫王国2018』（本の雑誌増刊）で、ライトノベル部門の一位に輝いた。マンガ化作品の刊行も開始されている。

トネ・コーケン

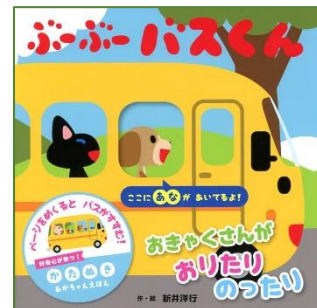
カクヨムに小説を書き、使用工具はKTCとアストロ。バイク遍歴多数。食費がバイクの維持費を上回ったことがない、という。町田市在住。

町田ゆかりの作家 新着本から



『ぶーぶーバスくん』
新井洋行／作・絵
フレーベル館
2018.5

『ぐるりんラグリン』
新井洋行／作・絵
大日本図書
2018.5



『バットランド』
山田正紀／著
河出書房新社
2018.5

『ののほな通信』
三浦しをん／著
KADOKAWA
2018.5

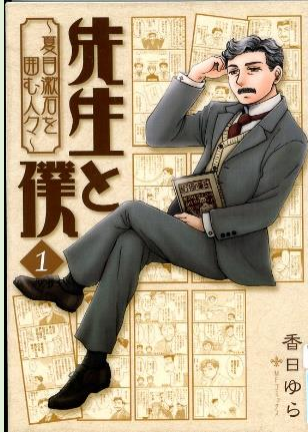


文豪キャラクターの マンガ作品

近年、文豪と呼ばれる近代の作家を主人公に据えたり、文学者たちの群像を、膨大な資料をもとに独自の視点で描いたマンガ作品が人気を博しています。

こうした作品の中から、文学館に新着のものをご紹介します。

新たな文豪像を愉しむとともに、文豪作品を改めて読んでみるきっかけとなったりするかもしれません。



『先生と僕』夏目漱石を囲む人々』全四巻
香日ゆら／著
KADOKAWA
夏目漱石とその門下生たちの日常をユーモラスに綴った四コママンガ。

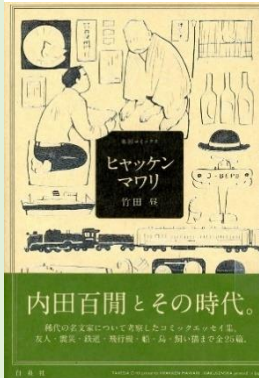


『月に吠えらんねえ』
一〜六巻 継続中
清家雪子／著 講談社
萩原朔太郎、北原白秋、室生犀星ら、日本近代の詩人、歌人、俳人の作品から作者が受けた印象を擬人化した登場人物たちが創作に苦悩し、迷い、さまざまの姿を描いている。

『最果てにサーカス』
一〜三巻 継続中
月子／著 小学館
大正一四年、小林秀雄と中原中也は運命的な出会いをする。事実をもとに二人の青春、恋、創作の日々を描く。



『ヒヤッケンマワリ』
竹田昼／著 白泉社
作者、竹田昼が内田百間について考察した作品。百間を読んでみたくなる。



文学館では、このほか『文豪ストレイドッグズ』（一〜一五巻 継続中）、『乱歩奇譚 幻』『文豪失格』シリーズなどを所蔵しています。

また町田ゆかりの作家のマンガ化作品なども揃えています。

これらの資料は予約できませんが、町田市立図書館のカードでお借りいただけますので、どうぞ、文学館に足をお運びください。

ことばらんど お宝紹介

町田市民文学館では、2006年の開館以降、町田ゆかりの作家の自筆原稿や旧蔵品、絵本の原画などをはじめ様々な文学資料を収集してきました。その収蔵品の中から、市民の皆様にご覧いただきたい“お宝”をサロンにて順次公開しています。



青柳寺 八幡城太郎 豆本コレクション

八幡城太郎（二九二一―八五）は、文学館に程近い相模原市南区上鶴間本町にある青柳寺の先代住職ですが、日野草城門の俳人であり、一九五三年には俳誌「青芝」を創刊しています。「青芝友の会」には石川桂郎や角川源義といった俳人のみならず、詩人の岩佐東一郎、城左門、田中冬二、野田宇太郎や、作家の福田清人、眞鍋呉夫、八木義徳、版画家の川上澄生や書物研究家の斎藤昌三など、彼の人柄を慕う多くの文化人が集いました。これら交友のあった文人たちの原稿や書簡、城太郎の旧蔵書などの夥しい資料が、縁あって開館時に寄贈され、地下の貴重書庫に収められています。

今回はそんな資料の中から、「豆本」を取り上げます。豆本とは掌に収まる小さな本のことで、一九五〇年代に刊行ブームが起りました。営利目的ではなく、作者の自由な発想を形にすることを目指し、装幀に工夫を凝らしたり、極小化に挑戦したりと、日本各地で競うように作られました。当然、大量生産に向かないため、ほとんどが一〇〇〜五〇〇部程度の限定版と貴重なものです。展示されているのは城太郎の豆本コレクションのほんの一部ではありますが、その妙をぜひお楽しみください。

お宝紹介スケジュール（予定）

展示中～8/26	青柳寺・八幡城太郎豆本コレクション
8/28～10/21	森村誠一自筆原稿(仮題)
10/23～12/28	文豪たちの自筆原稿～サンケイ新聞掲載原稿から
2019/1/4～3/17	街頭紙芝居

「町田の文学」第39号 2018年8月1日発行

編集・発行／町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 町田市原町田 4-16-17 TEL 042(739)3420

FAX 042(739)3421

★文学館公式ツイッター

Twitter@machida_kotoba



*この冊子は200部作成し、1部あたりの単価は190円です(職員の人件費を含みます)